

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2025

カンキツ「熊本EC12」の無加温ハウス栽培は 収量が多く果実は大玉で外観は良好となる

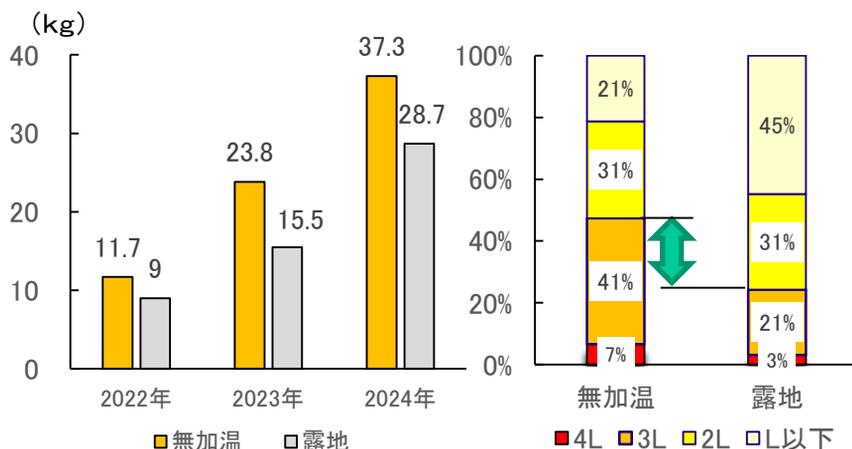


図1 1樹あたり収量の推移

図2 階級比率

※図1は天草農業研究所の4～6年生の調査結果

※図2は2023年における天草農業研究所と果樹研究所の平均値



写真 無加温ハウスの着果状況

問 研究のねらいは？

答 「熊本EC12」は年内に収穫できる早生カンキツとして、県南地域を中心に栽培面積が増加していますが、無加温ハウス栽培における生育特性は不明です。そこで、無加温ハウス栽培における特性を明らかにし、栽培管理の基礎資料とします。

問 優れている点は？

答 無加温ハウス栽培は露地栽培に比べ、以下のような特性の違いがあります。

- 1 樹冠容積の拡大は早く、1樹あたりの収量は多くなります(図1)。
- 2 果実は大玉傾向で、3L果以上の割合が2割程度多くなります(図2)。
- 3 病害虫や枝・トゲ等による傷果の発生割合は少なく、外観は良好となります。
- 4 発芽、開花盛期、果実着色が早くなり、果実糖度、酸度には差はありません。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- 1 無加温ハウスの植栽距離は、露地栽培より広めの4.0～4.5mとしてください。(露地栽培での永久樹の樹間は3.5～4.0m)
 - 2 着色期(10～12月)の気温が高い場合は、着色遅延の恐れがあるため、サイドビニルを巻き上げる等、施設内の温度を下げてください。

果樹研究所 常緑果樹研究室
天草農業研究所